

1. はじめに

2025 年 7 月 8 日から 14 日までの 1 週間、NUSOM Summer School に参加しました。このサマープログラムでは、名古屋大学の海外協定大学である、米国のジョーンズホプキンス大学、デューク大学、ノースカロライナ大学チャペルヒル校、中国の北京大学から総勢 11 名の留学生に加え、デューク大学の麻酔科や小児科の先生方も参加し、共に日本の医療について学び、各国の医療制度や問題点について議論しながら交流を深めるというものでした。この一週間を通して、たくさんの貴重な学びを得ることができ、かけがえのない友情関係を築くことができました。

2. 内容

(1) 大学施設・病院見学

海外留学生に名古屋大学医学部の施設や病院を紹介するため、1,2 日目に学内ツアーが行われました。普段は入ることのできない病院屋上のヘリポートや手術室、x R センターなどを見学し、他国の病院との雰囲気や教育システムの違いや共通点について語り合いました。また xR センターでは、名古屋大学の学生も普段の臨床実習内で使っている VR 手術シミュレーターを実際に体験し、どのような臨床実習を行っているのかについて説明しました。

(2) レクチャー

1 週間を通して様々な診療科の先生から貴重なお話を聞くことができました。

2 日目の午前には新生児科の先生による医療倫理の講義がありました。生後間もない子どもに、障害が残る可能性のある疾患が見つかったという想定で、各役職に分かれて英語で両親への説明を行うロールプレイをしました。両親の気持ちに寄り添いながら、正確な事実を伝えていくことの難しさを実感するとともに、将来医療者として患者や家族と信頼関係を築くために必要な姿勢を考えるきっかけとなりました。午後には、総合診療科の先生から漢方についての講義を聞き、実際にグループで漢方薬を調合したり、鍼灸と体験したりしました。普段学んでいる西洋医学との違いを学ぶことができ、貴重な体験とすることもできました。

最終日にはデューク大学の小児麻酔科医であるエリザベス先生より、小児の在宅医療についての講義を聞きました。小児の在宅医療で用いる装置について学ぶと共に家族への支援や他職種連携の重要性について知ることができ、とても興味深い内容でした。

(3) かがやき総合在宅医療クリニック・Come Come Swallow

3・4 日目には、在宅医療や訪問診療を専門に行っているかがやき総合在宅医療クリニックを訪問しました。留学生たちは美濃のクリニックで実際に訪問診療に同行し、名古屋大学の学生は事前に在宅医療研修（ビデオ）を受けました。また、重度の身体・知的障がいがある子どものためのリハビリ施設も実際に見学させていただきました。プロジェクターを使ってゲームをしながらリハビリができるプール、子どもたちが過ごしやすいように細部までこだわって設計された様々な設備に触れ、一人一人が安心して楽しくリハビリに取り組める環境づくりの大切さを実感しました。

Come Come Swallow は嚥下障害のある方向けに作られたメニューを提供する、病院運営のカフェであり、実際に嚥下食が作られる工程を見学し、食べさせていただきました。嚥下障害のある患者さんが家族を同じ食事を楽しむことができるよう、見た目や味まで配慮された工夫に驚きました。

2日間美濃の地域医療に触れ、普段の病院実習では学べない貴重な経験を得ることができました。「病気」だけを診るのではなく、生活環境や社会背景を含めた「ひと」を診るというプライマリケアの考え方について身をもって学ぶことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

(4) グループワーク

かがやきクリニックにて在宅医療・訪問診療の見学を行ったあと、各国の学生を含んだグループに分かれ、日本の地域医療の長所と短所について、また他国医療にどのように活かせるのかについて話し合いました。次に各国ごとの学生のグループに分かれて、10年後の自国の医療制度の将来展望についての発表を行いました。日本の医療を各国の医療との比較を通して、様々な角度から見ることで、日本にいたるだけでは気づかない良い点や問題点について深く考える貴重な機会となりました。例えば、日本人にとっては当たり前の医療費3割負担は、他国の留学生に羨ましがられる一方で、日本にはGP (General Practitioner) 制度がないために、医療費の増加や患者の負担に繋がっているといった問題点に気づくことができました。また、今回のプログラムのテーマでもある「Bridging Community Medicine and Innovations」について、日本が抱える問題を対処して持続可能な医療を築くために、地域医療と技術をどのように繋いでいくのかを考えるきっかけになりました。最終日には各国の学生を含んだグループに分かれて、地域医療のシラバス、3カ国の医療制度の違い、このプログラムのPR動画をそれぞれ作成し発表しました。

今回のプログラムではグループでの発表の機会が多くあり、英語でのプレゼンテーションの能力を高める貴重な機会となりました。また、異なる背景を持つ学生との意見交換を通して、多様な視点を尊重しながら議論を深め、チームワークの重要性を実感しました。

(5) 文化体験・交流

初日の夜にはMDECのメンバーも含めたウェルカムパーティーがあり、多くの留学生と医療のことだけでなく、様々な雑談を通して親睦を深めることができました。またこのプログラムには、海外の留学生が日本の伝統文化に触れる体験も組み込まれており、私たち日本人学生も一緒に体験させていただきました。かがやきクリニックへの訪問した際には、浴衣を着て美濃の街なかを散策したり、鶴飼ツアーに参加したりしました。

英語を使って、日本医療だけでなく自分のことや名古屋についても発信する中で、限られた語彙や表現でいかに分かりやすく伝えるかを考える、良い訓練になりました。私自身、来年の春に交換留学プログラムに参加させていただきますが、この経験を糧に海外でも積極的に交流し、日本の医療や魅力について自信を持って発信できるよう勉強に

励んでいきたいと思えます。

何よりこのサマースクールに参加して伝えたいことは、アメリカや中国の医学生と、かけがえのない繋がりを築けたことです。プログラム終了後も、連絡を取り合い、一緒に観光しました。世界中から集まった素晴らしい仲間と出会い、今後も長く続いていく友情を育むことができたことは、貴重な経験であり心に残る思い出です。この国際的な繋がりは、私が将来医師として働く上で大きな財産になると信じています。

3. 最後に

このプログラムに参加するにあたって、国際連携室の粕谷先生、Itzel先生、長谷川先生、宮川さん、笠井さん、かがやきクリニックの市橋先生、平田さんをはじめとするスタッフの皆様、プログラム中に講義をしてくださった先生方には大変お世話になりました。このようなたくさんの貴重な経験をさせていただき、心から感謝申し上げます。

